

[ニュース]

祝受章！日本舞踊家として活躍を続ける

藤間蘭黄氏が「紫綬褒章」を受章



©篠山紀信

日本舞踊家の藤間蘭黄氏が、2020年秋の紫綬褒章を受章いたしました。

藤間流の伝統を受け継ぐと共に、日本舞踊とバレエやオペラなどの芸術を融合させた創作作品などを発表し、精力的に活動を続ける蘭黄氏。光藍社の公演では、世界的なダンサーであるファルフ・ルジマトフ氏を主役に日本舞踊とバレエの融合したオリジナル作品「信長—NOBUNAGA—」を上演して好評を博しました。



藤間蘭黄氏 ©篠山紀信

令和2年の秋の褒章受章者が11月3日に発令され、日本舞踊家として活躍をしている藤間蘭黄氏が、紫綬褒章(しじゅほうしょう)を受章しました。

伝統的な日本舞踊の表現と共に、数多くの創作作品を発表して評価をされている蘭黄氏。2015年には、稀有なダンサーとして絶大な人気を誇るファルフ・ルジマトフ氏を主役に据え、岩田守弘氏の助演のもと、蘭黄氏が台本と演出を手掛けた日本舞踊とバレエを融合させたオリジナル作品「信長—NOBUNAGA—」が発表されました。蘭黄氏自身も出演する同作品は、2017年8月に光藍社主催公演として東京国際フォーラムホールCで上演が行なわれ、優れた芸術舞台作品として高く評価されました。



2017年「信長」の公演

紫綬褒章は、学術、芸術、技術開発等の功労者を対象とし、科学技術分野の発見や発明や、学術およびスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に対して授与されます。例年は天皇陛下への拝謁も行われますが、残念ながら今年は新型コロナウイルス感染症予防のため行われませんでした。これまでに学術分野などで優れた業績を挙げた研究者や大学教授、芸術分野で長年に渡り功績を残した芸能人や作家、オリンピックの金メダリストなどが受章。今回秋の紫褒章の受章者は17人で、俳優の中井貴一氏や漫画家の高橋留美子氏なども受章されました。

蘭黄氏は11月3日、浅草公会堂で「日本舞踊の可能性 vol.3」公演として、オペラ「セビーリャの理髪師」を題材にした「徒用心(あだようじん)」、ゲーテの戯曲「ファウスト」を題材にした「禍神(まがかみ)」を上演。久しぶりの公演開催と受章が重なる、喜びの公演となりました。



「日本舞踊の可能性 vol.3」2020年11月公演 撮影：瀬戸秀美<左・中央写真>、岡村昌夫(テス大阪)<右写真>

今回の受章に対して「芸術院賞に引き続き紫綬褒章を頂戴することとなり、大変驚くとともに、とてもありがたく思っております。これからも日本舞踊のため、日本の古典芸能のため、延いては日本のために精進して参ります。一所懸命頑張ります！」とコメントをしています。

蘭黄氏は、令和元年度日本芸術院賞を受賞。日本舞踊における古典を継承するとともに、優れた作品を発表し日本舞踊のさらなる発展・普及に寄与した功績に対する受賞で、2年連続して大きな賞を受けることとなりました。今後の活動としては、先日11月公演の世界配信をはじめ、本年行う予定だったオーケストラの生演奏と共に日本舞踊にコ

ンテンポラリー・ダンスやマイムなどを加えた創作舞踊劇「GOZAMARU～勇者の物語～」の上演や、「信長-SAMURAI-」の再上演などを予定しています。

藤間蘭黄 HP <http://www.daichi-fjm.com>

YouTube 「RANKOH CH」 <http://urx.red/EyfV>